



H27



Forest 通信 5

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター No.315

巻頭 photo **高尾山の生きものたち**

新緑に歌う

オオルリ (ヒタキ科)

今年も新緑の季節を迎え、例年のごとく高尾山一帯には多くの夏鳥が渡来し、繁殖活動に入ります。

その夏鳥の中でも、美声の持ち主がオオルリで、写真の通り、姿、色も美しく、多くのファンを魅了。

私もこの時期になると、この夏鳥に会いたくて裏高尾詣でを繰り返します。

昔は飼い鳥としてよく密猟されていましたが、野鳥は狭い籠で飼うべきではありません。皆さまもオオルリ観察をしてみませんか！

八王子市の鳥に指定されています。

今月の一句

「溪流に美声こだまし胸躍る」

(写真・文 大作栄一郎氏)

いろはの森

緑が旺盛な今日このごろ、通勤電車の中で突然「卯の花の匂う垣根に 時鳥はやも来なきて」のフレーズが浮かんだのですが、盆暗な小生には卯の花が何か考えたことすら・・・。

そこでスマホでフリー百科事典により検索したところ、初めてアジサイ科ウツギ属の落葉低木のウツギ(別名:卯の花)であることを知ったのです。ウツギは、茎が中空のため空木(うつぎ)と呼ばれ、「卯の花」の名は空木(うつぎ)の「ウ」を取って、う(うつぎ)の花と名付けられたとされています。

また、この童謡の後半部「忍音もらす夏は来ぬ」を「夏は来ない」と聞いてしまいましたが、意味はまったく逆の「夏が来た」(Summer has come)なのです。どおりで日中は汗ばむことが多いわけです。

旧暦4月は、旧暦の初年から4番目の月で「卯月」(うづき)。新暦の4月下旬から6月上旬ごろ、ウツギは枝先に多くの白い花を咲かせて高尾山の山麓から山頂までに咲き誇っています。

小生は、今年で年齢が人生の折り返しを過ぎ大台に乗ったのですが、いまだに頭の中はウツギの茎と同じです。もしかして、いやたぶん更に「カラ」になっていると自覚しています。(か)



高尾森林ふれあい推進センターは、皆さんが高尾山の自然に親しみ、森林や林業に理解を深めるための諸活動を行っています。

Forest通信 H27.5.1.No.315 1

● 高尾森林ふれあい推進センター協定イベント



奈良の古より多くの歌人や高貴な人々に愛されて来た“すみれ”がテーマのイベントでした。150名からの応募を受けた時の驚きは、敢えて表現するなら、こんな感じです。何と！ナント！なんと！Nanto！54名の当選に46名の方々の参加を得ました。

当日は高尾山口駅から、ケーブルを使って約40分程の山頂から6班に分かれて出発。稲荷山を下り、高尾林道へ、そしてふれあい館での昼食を経て、大平林道～学習の道～もみじ台北巻道～山頂北園地迄の約4時間半に亘る花のハイキング。平均年齢65歳とは思えぬ参加者の健脚には、応募条件に記載済みとはいえ、皆さんの日頃の精進ぶりを実感した次第。



いざ出発

下見（リハーサル）を含め4回の学習会等、入念な準備を経ての本番でしたが、全員が各持ち場と役割を存分に発揮できたのではないのでしょうか。多くの参加者の嬉々とした表情、楽しげな笑い声、積極的質問や身を乗り出してスマイレに顔を付けんばかりの様子を見ていると、そんな実感があります。



花の観察

単に花名や見わけのポイントは勿論、葉を裏返しての説明等に加え、いろんなエピソードを織り込んだ雑学に耳を傾ける皆さんの顔を想像してみてください。

“スマイレの花が～♪♪～”と口ずさんで、「お聞きになったことはありませんか？」と言った質問に、「宝塚！」との応答。それでは宝塚以外にもう一町、「すみれを市町村の花」と定めていますが御存じですか？町おこしに、スマイレの香水をつくり発売中です～等の話に皆さん「へ～」



合唱・声をそろえて

ナポレオンに纏わる逸話等幅広い学習効果を遺憾なく披露する場面も。それにしても、参加者の“すみれ”に対する愛着は恐るべきものを感じました。

閉会式会場である北園地ではアンケート回収の後、各班代表者1名からの感想発表があり、最後に高尾パークボランティア会参加メンバー全員が前に出て感謝の御礼を述べ閉会しました。

○以下、リーダーの挨拶要旨

「好天が全て。高尾の春を満喫頂けたでしょうか。この感動を、この楽しさをお孫さんやお子さん、そして友人・知人の方々にお伝え頂ければ本当に嬉しく思います。本日はお疲れ様でした。気をつけてお帰りください」

(写真・高尾パークボランティア会 吉野 秀夫氏)

(文・高尾パークボランティア会 堀本 義弘氏)



参加者への感謝をこめて



中央区立 佃島小学校

桜の季節が過ぎ、初夏めいた日差しの中の4月23日に、中央区立佃島小学校の5年生81名が森林学習、丸太切りや森林観察などを体験しました。

午前中はパワーポイントの教材で森林の働きについて学び、丸太切りにも挑戦しました。生徒が一番楽しみにしていた丸太切りは、生徒のほとんどがノコギリを使用した経験があり戸惑うこともなく、一人で何枚も厚さを変えて切り、友達同士で見せ合いっこしていました。丸太切りの後の「木の生長の説明」も、全員が目を輝かせていました。

午後からの森林観察では、森林学習で学んだことを山を見ながら再度確認しました。中には、職員やフォレストサポートスタッフが困るような専門的な質問をする子もいました。

タワーマンションの立ち並ぶ都会から来た生徒達は高尾の自然を満喫して無事帰路につきました。



「切れそう?」「もうちょっと・・・」



「木が生長する仕組みって?」



出会いの春・・・4月に高尾森林ふれあい推進センターに来た2名の新職員をご紹介します。



関 清孝さん

4月1日付けの人事異動で、6年ぶりに高尾森林ふれあい推進センターにお世話になることになりました「関」と申します。

6年ぶりとは言うものの、3年前までは同じ高尾地域にある別の職場に勤務し高尾山を中心とした森林の管理をしていましたので、考えていたほどの不安がなく4月から楽しく勤務させていただいています。

以前勤務していた際と変わったと感じたことは、センターで主催する公募イベントが殆どなくなったということでしょうか。その分、ボランティア団体等と協定を締結し、参加者のニーズにあったイベントやプログラムを選択できるようになり、自然とのふれあいを堪能できる機会が増えたのではないかと感じています。

このような中で、私たちには次世代を担う子どもたちに、森林や自然環境を中心にわかりやすく解説していくことが重要なのではないかと感じています。

今後とも皆様方のご指導を受けながらふれあいを大切にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



藤田 富二さん

高尾森林ふれあいセンターは3回目の勤務になります。

1回目は森林センターが発足間もないころで製品事業所の2階に間借りをしていて業務内容もまだ手探りの状態でした。その代わりになにをやってもいいという中で、日影沢キャンプ場で高尾山に登山するために来た人をイベントに呼び込んで行ったりしました。そしてそのことがいかに大変であるかを身をもって感じて翌年からは事前に募集するやり方に変えました。

2回目はJRの高尾駅から今の高尾山口に引っ越してきて新築の事務所になる頃の勤務で森林教室や森林カレッジをはじめ自前のイベントの内容も盛りだくさんになっており、毎日がイベントの準備というような日々でありました。

今回は一般会計になってふれあい推進事業もイベント実施団体を募集して行っており、自前のイベントの回数もだいぶすくなくなってきました。森林センターの果たす役割もだいぶかわってきたなと思う今回の勤務ですが、よろしくお願いいたします。

NEW!

information 参加者募集中!

高尾山の夏の樹木と草花ハイキング



高尾山日影沢より山頂へ。森林インストラクターと一緒に、爽やかな初夏の森のハイキングを楽しみましょう。



- 日時** 平成27年6月19日(金)
- 集合** JR高尾駅北口改札前 8:45
(9:12バス乗車)
- 解散** ケーブル高尾山駅 15:00頃
- コース** 日影沢バス停～一丁平(昼食)～山頂～4号路(つり橋)～ケーブル高尾山駅
- 実施** 森林インストラクター東京会(高尾森林ふれあい推進センター協定イベント)
- 募集人数** 30名(応募者多数の場合は抽選)
- 参加費** 1,700円(バス代230円は個人負担)
- 持ち物** 昼食、飲物、雨具、筆記具など
- 服装** ハイキングに適した服装、靴、帽子
- 備考** 小雨決行(荒天が予想され中止の場合は前日に連絡します)

【申込方法】

往復ハガキの往信面に、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)・年齢・性別④電話番号(中止時などの緊急連絡用)⑤メールアドレス⑥このイベントを何でお知りになったかを記入、返信面には、お申込者の宛名をご記入のうえ、高尾森林ふれあい推進センター「高尾山の夏の樹木と草花ハイキング」係までお申し込みください。★申込〆切 平成27年6月5日(金) 必着



編集後記

5月に入った途端、もう夏かと思うほどの暑さになりました。山から吹く風は爽やかですが、日差しがまぶしい新緑の高尾、念のため熱中症対策をしてお越しください。(ま)



クラフト体験室のご案内

★ご利用方法が変わりました

高尾森林ふれあい推進センター、1階クラフト体験室では、木工クラフト作製を体験することができます。平成27年4月からご利用方法が変わりましたのでご案内します。

○個人利用の場合(10名まで)

【利用時間】

午前の部 10:00～12:00(受付11:00まで)

午後の部 13:00～16:00(受付15:00まで)

★**先着順**。午前・午後とも定員15名まで。申込の際に備え付けの「クラフト体験予約票(個人用)」に記入してください。ただし、団体の予約が入っている場合は利用できないことがあります。

○団体利用の場合(10名以上)

★**事前予約制**。使用予定日の2週間前から2ヶ月前までに、森林センターまで空き状況をお問合せのうえ「クラフト体験予約票(団体用)」(センターHPよりダウンロードできます)を提出してください。(FAXもしくは郵送)

- ★作製は原則一人あたり1個のみとします。(無料)
- ★また、土日祝祭日は小学生以下の子どもまたはその親子(グループ)を優先とし、中学生以上の利用を制限させていただきます。
- ★クラフト体験室はセンターの管理運営の都合上、事前予告なく臨時休館する場合があります。ただし、予約等があれば通知します。

クラフト体験室の利用基準等、詳細は高尾森林ふれあい推進センターホームページ内の「常設展示・季節展示・クラフト体験」をご覧ください。皆さまのお越しをお待ちしております。

Forest通信 No.315

発行：高尾森林ふれあい推進センター
Forest通信へのご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先



林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689 IP電話 050-3160-6040

FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>